

マメ科 シャジクソウ属

クスマツメクサ (薬玉詰草)

Trifolium campestre Schreb.

自生環境

道ばた、荒れ地、公園 など

原産地

西アジア～北アフリカ

予想される被害

駆逐



現時点では、同じ仲間のコメツブツメクサのほうが圧倒的に多く見られます。ただ、この5年ほどで急速に数が増えてきているので、今後の動向が気になるところです。

特徴

- ☆ 日当たりが良く乾燥した場所を好む 1 年草です。国内では 1943 年に横浜で見出され、現在は全国各地に広がっています。市内でも 2010 年頃から急に数が増えはじめ、新しく土地造成が行われたような場所を中心に広がっています。
- ☆ 同じ仲間のコメツブツメクサは、市内でもより古くから定着していますが、クスマツメクサはそれに比べると花の穂が大きく、見応えがあります。また花びらは脈が浮き上がって何本もの縦筋が通っているように見えるのも特徴のひとつです。
- ☆ 茎は環境に応じて立ち上がったたり地を這うようにしながら伸び、30cm ほどの草丈となります。花期は春～夏で、花が終わった後も花びらは脱落せずに残って、果実を包みます。残った花びらはカサカサになり、まるで「ホップの実」を連想させます。

市内の分布状況

近年大規模開発が行われた場所で発生し、分布をどんどん拡大しています。市内全域に広がるのはおそろしく時間の問題です。



最近花苗としても流通

クスマツメクサは、直径 2cm ほどの丸い花の穂を次々と咲かせ、とても可愛らしい姿をしていることから、最近はラッキークローバー、またはクローバー・ゴールドコーンなどの名前として花苗が流通しています。花後もカサカサとしたホップのような穂がしばらく残るため、ドライフラワーにも最適です。ただ、繁殖力が強いので、栽培するときは野生化させないように気をつけましょう。



花の穂はコメツブツメクサよりも大きい



花びらには筋が何本も通っている



果実を包む花びら

果実は花びらの中で育つ。そのため花びらをめくらないと果実の姿は見えない

小葉は3枚。てっぺんの小葉には柄があって少しだけ離れてつく



てっぺんの小葉

柄

小葉

小葉



比較 コメツブツメクサ



花が咲き終わっても花びらはそのまま残る



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

